

令和6年度第3回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会議名 令和6年度第3回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和7年3月21日（金） 午後2時から午後3時45分まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所東大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 鈴木道明委員、平野和彦委員、栃内宏之委員、小岩孝朗委員、館澤敏子委員、三浦喜博委員、小島正明委員、佐藤寿幸委員、小野寺美枝子委員、青柳さつき委員、千葉喜代一委員、村上とも子委員、吉田美和子委員、金森勝利委員、白石理恵委員
※欠席者 菅原祝子委員、大石敦子委員、三浦尚博委員、熊谷繁弘委員、小山亜希子委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、小野寺愛人まちづくり推進部長、藤倉忠光一関図書館長、佐々木修路一関市博物館次長、氏家克典教育委員会事務局副参事兼文化財課長、伊藤信子いきがづくり課長、小野寺和宏いきがづくり課長補佐兼いきがづくり係長、佐藤康隆いきがづくり課市民センター係長・社会教育主事、阿部彰いきがづくり課主査、千葉理央いきがづくり課主事、千葉富美江健康づくり課主任保健師、小野寺愛健康づくり課主任保健師
- 5 説明内容
 - (1) 令和7年度一関市教育委員会社会教育行政の方針（案）について
 - (2) 令和7年度一関市教育委員会社会教育行政等事業計画（案）について
 - (3) 令和7年度社会教育関係団体への補助金交付について
 - (4) いちのせき名人・達人バンクについて
 - (5) その他
一関市健康こども部健康づくり課から情報提供
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 教育長挨拶

本日はお忙しい中、令和6年度第3回社会教育委員会議にご出席いただきましてありがとうございます。

教育委員会では、年度末を迎えまして3月10日から19日にかけて、市内の小中学校の卒業式が行われました。教育委員会としては設置者として出席してきたところでありま

す。

小学校は義務教育の一つの大きな節目であり、中学校は義務教育を修了ということ、次のステップに向けて子どもたちの希望を感じるとともに、教職員や友人との別れという悲しさが混在する中で、非常に厳かな雰囲気の中で卒業式が行われているということを感じてきました。卒業生が決意を述べる場面があり、それぞれの学校の工夫で、答辞や呼びかけが行われているところです。その中で、教職員への感謝や保護者への感謝が伝えられるのですが、どこの学校でも共通しているのは、地域の方から支えられていることへの感謝の言葉があり、子どもたちの心に響いているということを感じているところでもあります。子どもたちの健全育成には地域や社会教育が非常に大切であるものだと、再認識して参りました。皆様には非常に感謝しております。

さて、本日の会議では、令和7年度の一関市教育委員会社会教育行政の方針、一関市教育委員会社会教育行政等の事業計画、そして社会教育関係団体への補助金交付について説明をさせていただきます。委員の皆様からご意見をいただきながら、次年度の社会教育行政に反映して、事業を展開していきたいと考えております。

特に、令和7年度については、平成28年度から現在の令和7年度の10年間の計画である一関市教育振興基本計画の最終年度となっておりますので、この10年間のまとめの年であるとともに、次年度は、令和8年度から10年間の計画を策定していく時期にもなりますので、皆様からいただいた意見等については、次の計画にも生かしていきたいと考えております。

また、今日の次第の説明の中で、いちのせき名人・達人バンクの説明を準備させていただいておりますが、これは生涯学習またはまちづくり活動の機会を広げて、活力ある地域社会活動を支援することを目的に、この令和7年4月から新たに取り組むものでありますので、この機会に説明をさせていただきたいと設定しているところでもあります。

また、第1回の会議の中で、委員の皆様から不登校やひきこもりに関わる支援についてご意見をいただいたところでもありますので、健康こども部健康づくり課から情報提供をさせていただくということで、考えております。

本日、皆様から多くの意見をいただきまして、これからの社会教育行政に少しでも多く反映させることができるよう取組を進めてまいります。今後とも御力添えいただきますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

9 説明

(1) 令和7年度一関市教育委員会社会教育行政の方針（案）について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

- (2) 令和7年度一関市教育委員会社会教育行政等事業計画（案）について資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。
- (3) 令和7年度社会教育関係団体への補助金交付について資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。
- (4) いちのせき名人・達人バンクについて資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 一関市地域婦人団体協議会連合会を代表して出席している。地元の婦人会で、昨年、笑いヨガの指導者千葉セツ子さんという方を招いたが、大変素晴らしい方だったので、ぜひ登録していただければと思ってお声掛けをしようと思う。それに関連して、講師の方が教室をする場合に準備するための必要経費なども講師自身が負担することになるのか。「いちのせき名人・達人バンク」に登録したことによって何か補助はあるか。

事務局 「いちのせき名人・達人バンク」は、特に何か補助が出るというものではなく、必要経費は講師が負担するか、もしくは利用者が会場使用料を負担するとか、講師と利用者が相談して行っていただく形になる。

委員 とても良い取組だと思った。この事業を企画しただけだと、どのくらい人が集まるのか心配であり、これを積極的に広めるために、例えば市民センターやいろいろな団体に呼びかけをして宣伝するなど何か工夫がほしい。

事務局 本当にその通りだと思っている。広報に掲載しただけでは集まらないと思う。そこで、まずは市民センター所長会議の際に「こういった新しい事業を始めるので、ぜひ市民センターで活用している講師にお声掛けをお願いします。」と周知した。また、市の芸術文化協会にも案内をした。あとは、市役所の各課に、関係する団体等へ声掛けをお願いした。現在、個人28名、団体8団体、計36の講師としての応募があった。

委員 令和7年度の市の広報には掲載されるか。

事務局 「いちのせき名人・達人バンク」を開始するという記事を広報に掲載したいと思う。

(5) その他

委員 新しい取組が出てきているが、その中に集落支援員という取組もあると聞いている。集落支援員と社会教育との関わりについて、社会教育の領域でも集落支援員に援助してもらえることがあれば、まだ制度として正式にスタートはしてないのではないかと思うが、答えられる範囲で伺う。

事務局 集落支援員については、協働のまちづくりの中で進めている事業である。基

本的には、各市民センターを指定管理している地域協働体がほとんどになるが、その地域協働体の職員を集落支援員ということで市から委嘱し、この方と一緒に地域づくり、それから集落の支援などをしていくというものである。社会教育の分野もきちんと連携しながら進めていかなければいけないと考えている。これから各地域協働体からの推薦をいただくような形で進めているが、4月1日になれば市が委嘱し、その中できちんと情報共有しながら進めていく段取りである。基本的にはこれまで地域協働体が進めていた地域づくりや集落の支援などをもう少し手厚くしていくことと、あとは委員からお話しいただいたような社会教育の分野ももう少し連携しながら、進めていければ良いと思っている。

委員 児童生徒を支援する施設に通わせている親から、私の友人が聞いた情報だが、指導員の方から偏った思想の話を聞かされたということを知ったので、もしかしたら教育委員会の方にそういう苦情というか質問が寄せられていないか。

もう一つは、博物館に関して、非常に良い催し物があり私も伺いたいと思うが、市営バスの本数が少なくなり、公的な交通機関が不便になって、私のように自分で運転することができない方がなかなか行けない。特別展があるときだけでも良いから市営バスを運行して、駅や書店あたりから来れるような工夫を博物館が中心になってしていただくと、私のような興味があっても行けない方は大変助かるのではないかと思う。

教育長 今現在、偏った考え方の話を聞かされたという話は教育委員会には届いていないが、定期的に教育委員会で情報交換しているので、そのようなご意見があることを伝え、留意していただくようにしたいと思います。

事務局 公共交通の便の関係については、博物館の利用者の中にはある程度高齢の方もいらっしゃる中で、博物館までの公共交通の便が悪く、行きたくてもなかなか行けないという話は他からもいただいている。ただ、博物館の方で公共交通について調整することは難しい。展示会に合わせて博物館の方で何か工夫をした方が良いということについては、このようなご意見をいただいたということは内部で共有したいと思います。また、博物館の利用の関係で、展覧会に合わせて市民センター事業として博物館を見学いただくということを例年実施している市民センターがある。あるいは学校関係などで博物館を団体利用される場合に、その展覧会の内容について学芸員が展示解説などを行ったりもしているため、例えば、市民センターの年間の事業の中で、展覧会に合わせて博物館を利用させていただくような事業も企画していただければ、こちらとしてもありがたい。

10 その他

(1) 一関市のひきこもり支援体制について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 ネットになっているのは、ひきこもりのご家族がいるということ地域や隣近所も含めて、分からないことが多いこと。民生委員も、そこは個人情報ということで絶対明かしてくれないため、知らないままずっと後から聞いて分かるような状況なので、手遅れにならないようにしなければならないと思っていも、なかなか情報がなく、取り組めないのが実情ではないかと思う。しかも、こういう良い取組があっても、遠くて来られないとか、あるいは家族の方がもう諦めてしまっているという非常に大変な状況であるように感じる。もう一つは、例えば、市民センターで相談会があると、逆に地域の皆さんに知られたくない、顔を見られたくないということで、そういう公の場を敬遠するケースもあると聞いている。そこで、場所を変えてみたら来たということもあるので、相談しやすくするにはどうしたら良いかという辺りも考えていただきたい。

事務局 一人一人の状態は様々であり、地元の人には知られたくないという方々もいる。なかなか相談したくても相談できない方もいる。やはり一人一人に寄り添った支援が重要と言われているので、引き続き、保健師が家庭訪問したり、場所を変えてお話を聞いたり、地域の人たちに見守ってもらい、なかなか相談する気持ちにならない方々の場合は、「気にしているよ」という形で気持ちに寄り添っていただければ、それもまた地域の理解という点では大切だと日頃の活動を通して感じている。

(2) その他

委員 現在、人事の採用を担当している。来月から新年度ということで、新採用が決まっているが、私が採用された当時と比べると募集しても応募がない状況。本当に人材がない。これは私の職場だけではなくて、全国的にも人が足りない状況。建設関係、サービス業関係、そういったところは人がいなくて仕事を取りたくても取れない状況である。その中で、昨年の夏頃にハローワークからいただいた高校卒業生の進路状況という資料を見ると、一関市には高校が10校あった。今年3月に高校生が約1,000人卒業する。3学年あるため約3,000人の若い生徒がこの一関市に通って勉強している。それなのに人がいないというのはどういうことなのだろうとまず一つ疑問に思った。それから就職状況を見ると、大体7割は進学するという状況だった。教育なのでや

はり教える側と教えられる側があるとが、どちらもどんどん人が減っているという状況だと思う。一関市の人口を見ると大体年間1,500人から2,000人くらいが毎年減少している状況なので、何とかその若い人たちがこの一関市に残るような、あるいは市外に出ていった若い生徒も一関市に戻ってくるような教育、あるいはその地域を作るといふものも併せてやらないと、いくら一生懸命教育しても、だんだん人がいなくなるとなってしまうのは、ちょっと寂しいと思う。

それからもう一つ、半年くらい前だが、テレビ番組で、地域の人口が減っているという特集の番組があり、若い女性が地域からいなくなるということを都心の方でインタビューをしていた。20代30代の女性にインタビューしていて、「なぜ地域に残らないでこっちに来たのですか。」という質問に対し、インタビューされた側の女性は、すごく魅力のある地域という話はするが、必ずその後に出てくるのは、例えば「お祭りなどの行事が終わった後に、懇親会をするが、男性が真ん中に陣取って、女性が料理を作り、いろいろな物を運ぶ光景を小さいときから見ているので、何かそこにいたくないなと思ったので地元には残らないで出てきました。」という回答だった。私の地域でも運動会やお祭りとかのあとは集会所に集まってお酒を飲んだりするが、やはり女性がいろいろな物を作ったり、運んだりする。そのような慣習から直していかないと、若い人、特に女性は地域に残らないのではないのかなと思った。私の職場でも女性の管理職の数が少ないが、管理職をやって、家に帰れば家事もやって、子育てもやって、そんなことできるわけがないと、そのテレビを見て自分で反省した。地域のみんなで取り組んでいかないと、教育というところまでは繋がっていかないのではないのかなと思った。

事務局 今お話しいただいた卒業した高校生1,000人のうちの7割が進学、あとの3割のうち管内に45%くらい、管外に65%くらいが就職するというような状況。市ではこれまで市長が高校生に対していろいろなお話をする機会を設けてきたが、高校生だけではなく保護者の方にもということで、令和7年度は、各地域が中心となるかと思うが、中学校、高校、幼稚園なども含めて保護者の方に、市長がこういう状況ということを含め懇談の場を設けたいと考えているようである。これは今計画を進めており、新年度になったらしっかり打ち出されると思うので、そういう形で進めていこうということ考えている。

それから、二つ目の男性女性の関係について、考え方は変えていかなければならないと思う。資料の14ページにあるが、各市民センターにおいてテー

マに沿った取組ということで、2年目のテーマとなるが、男女共同参画「誰もが個性を尊重し能力を認め合う多様性への理解の促進」ということで、いただいたご意見を参考にしながら取り組んでまいりたいと思う。

教育長 学校教育の話になるが、子どもたちの数が減少して、大人以上に子どもたちの数が減少しているのが、市内全体の小中学校の子どもたちの数が、年間200人から300人の減少でスタートしている。そのような中で学校教育の果たさなければならない役割としては、将来の地域を支える人材育成が非常に大切だと思っている。その面で、この一関に残るとか残らないということに限定しないで、自分たちが将来の地域、それが一関であったり、岩手県だったり、東北であったり、グローバルであったりというところがあるが、そこを支えていくことが学校教育の中では重要であると考えている。各学校では小学校では社会科の副読本であったり、あるいは地域との関連行事であったり、様々な取組をしている。岩手県やあるいは全国で学習定着度状況調査という学力検査を行っているが、それに質問紙調査がセットになっており、いろいろなことを聞いている。その中で、県でも全国でも、人材育成の中で、地域を大切にすることが非常に大切なので、「自分たちの住んでいる地域には良いところがあるか」や「自分たちの地域が好きか」という項目があるが、全国の質問紙調査の結果より、岩手県は高い状況であり、その中でも一関市は非常に高い状況なので、子どもたちが地域のことを大切にしていたり、自分たちの地域が好きという意識は高いと思っている。今後、そこを将来に繋げていくには、キャリア教育が大切であり、小学校であれば、地元の企業や、あるいは地元の自然などを題材にしながら教科の授業と関連していくところもある。中学校は高校進学という進路があるので、なぜ勉強するのかあるいはどんな人に自分になりたいのかというときに、将来の職業感と関連することが必要と考えている。学校にはすごく負担をかけているが、一関市では中学校2年生で5日間の社会体験学習で、市内の300事業所に受け入れてもらう。他の市町村が年間2日、3日のところを一関市ではより深化させたいということで5日間行っている。中学校2年生までに小学校段階、中学校1年生、中学校3年生というこの段階を踏まえていくことが必要なのかなと思っているので、自分の地域に誇りを持ち、一関のためにがんばる子どもが1人でも増えれば良いと思う。

また、男女共同参画の面では、今学校でも男女共同参画は非常に大切に取り組んでいる。その手法は各学校に任されているが、いくつかの学校では卒

業生入場の際に、男女別ではなくて生年月日順とか名前のあいうえお順になっている。そういった面で男女を尊重して性差による区別にならないようなところはかなり浸透してきたと思う。現在、各学校では学校運営支援協議会という組織を持って地域と関連しているので、そういったところが課題になっているというところを話題にさせていただくことも今後検討していきたいと思う。

11 担当課 まちづくり推進部いきがづくり課